

てい鍼職人の小越です。

今日は、小越の最初のメルマガということで完全手づくりの「てい鍼」ができるまでを詳しく説明したいと思います。

体に優しいチタンてい鍼（直径6ミリX長さ110ミリ）を例にとり、その作製過程の全貌を。

それでは、「てい鍼作製編」のはじまり、はじまりです。

【1. 素材（チタン丸棒）は専門の販売業者から購入します。】

素材は定尺（長さ2メートル）のままですが、それを所要長さ、ここでは110ミリの長さ、金ノコ（金切のこぎり）で切っていきます。



切断面には、必ずバリ（切断面の縁に付着している金属突起物）が出ますので、まず、この突起物をヤスリで除去します。

【2. それを横置きにしたボール盤（主に金属に穴をあける工作機械のひとつです）にしっかり取り付けます。】

ボール盤に電源を入れ、加工物（チタン丸棒）を回転させます。回転速度は一定にセットしてありますが、材料によっては回転速度を変えます。



【3. いよいよここで鉄工ヤスリの出番です。】

ここからが手作りてい鍼の真骨頂です。
一端面は半球状に削りますが、もう一端は曲面を持たせつつ、テーパー（先細りになっている状態）をつけていきます。

まず、中目（荒さの程度を表す指標で、形を大体整えるために使う）ヤスリで所要の形状に近づくまで削ります。

今度は細目のヤスリで削り面を滑らかにしつつ、形状を整えていきます。



※使用ヤスリについては、「こだわり」があります。技能オリンピックでも使われる「ニルソン」製の鉄工ヤスリを使います。

【4. つぎは、紙ヤスリが布ヤスリで削った面をてい鍼を指で回しながら最終仕上げをしています。】

最低4種類の紙・布ヤスリを使用し、鉄工ヤスリでできた円周方向のキズを少しずつ消していきます。



「この位でいいだろう！」という妥協を許さない頑固さと忍耐が手作りのてい鍼の原点なのかもしれません。

私の右の母指と人差し指の指腹はこの作業に堪えるように極端に硬くなっています。

実は、私は指圧・按摩・マッサージも兼業しているのですが、この硬さが「何とも言えない気持ちよさ!？」を生んでいるようです（笑い）。

【5. さあ、最後はご希望の方にイニシャルを彫ります。】
ここでもう一度紙ヤスリでバリをとり、一連のてい鍼作製を完了します。

頑固一徹のてい鍼職人
小越建二